

⑩ 「アメリカ世の記憶」 米軍統治下時代の証言映像収録事業

子ども生活福祉部

実施主体： 沖縄県（平和祈念資料館）

実施時期： 令和4年4月～令和5年3月

<50周年記念事業のテーマ>

- 2 事業を通して、復帰から50年間の歴史を振り返り、先人たちの労苦と知恵に学ぶとともに、誇りある豊かさに向けた展望を発信する。
- 3 事業を通して、祖先への敬意、自然への畏敬の念、他者の痛みに寄り添う肝心など、沖縄文化の魅力を共有し、恒久平和を願い、喜びを分かち合うユイマールの思いを大切にする、沖縄らしいやさしい社会の実現に向けた機運を高める。

【事業の内容等】

- ①米軍統治時代の証言映像収録・編集；県民に復帰50周年の節目にあたり、「復帰」という言葉をしっかりと意識してもらう意味で、復帰を強く望んだ1950年代半ばから1972年の期間における米軍統治下時代の「戦後の窮乏生活」「強化される土地・土地接收」「人権抑圧」「米軍関連事件・事故」等に係る約20名の方々の証言を収録・編集する。
- ②証言の活用；平和祈念資料館において計画している特別企画展「アメリカ世の記憶(仮)」(令和4年10～11月)においては、当時の県民の「暮らし」「教育」「事件・事故」「復帰運動」を柱に据えた展示を計画しており、その中で展示予定の写真・文書・実物資料をよりイメージしやすいものにするための証言を抜粋し、パネルやファイル化した「読む」資料として展示する。
写真などの展示資料と証言を合わせることで、当時の県民の「復帰」への強い思いを伝える。
- ③WEB配信；当館ホームページにて「アメリカ世の記憶(仮)」として証言映像(日本語字幕付き)を公開するとともに、学校や関係機関へのポスター・チラシの配布、平和講話時に紹介するなど、広報活動にも力を入れ、多くの県民へ「復帰への強い思い」を体験者の生の声をもって追体験してもらう。※英語版は令和5年度公開予定
- ④他機関との連携；当館、史料編集班、県立図書館、公文書館、県立博物館・美術館の5機関で連携し、復帰50周年記念事業として互いの事業の広報活動や特別講座や移動展における連携を図る。

【50周年事業としての意義】

●本県の平和推進活動は、沖縄戦の体験と戦後27年間に及ぶ米軍統治下における様々な経験が原点である。これまで収録・公開した戦争体験者の証言は県民共有の財産となり、沖縄戦の歴史的教訓の継承と平和を希求する「沖縄のこころ」の発信に貢献してきた。

戦後の米軍統治下時代は、沖縄戦の延長線上にあり、復帰へと繋がっていく。その体験証言は、次世代へ戦後の県民の苦労や努力を伝え、「復帰」という言葉に深い意味を持たせる。

復帰50周年という年に、沖縄戦や米軍統治下を知らない世代が増える中、米軍統治下時代の体験者の「記憶」を証言として収録し、広く県民に公開することは重要な意義があり、次世代へ繋ぐ新たな財産にもなる。それは、次世代に人間の尊厳と平和の尊さを実感させるとともに、沖縄の諸問題についても問題提起を行い、平和を希求する「沖縄のこころ」の継承と恒久平和の樹立に寄与するものとなる。

【県民へのアピール】

●今までふれられる事の少なかった「米軍統治時代」を、証言と共に紐解いていきます。証言を通して少し昔の沖縄へタイムトリップしませんか。

【県民の参画】

●特別企画展への参加、WEB-DVD(Blu-ray)を通して観る。